

# 草原の輝き

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



高校 3年6組(ミュージカル最優秀賞)の見事な演技

夏休が終わる頃から、段ボールや大きな空箱を抱えた制服姿の淑徳生が丘界隈で見られるようになります。学園祭のための舞台装置や展示作品などの材料を運んでいるのです。

毎年秋に行われる学園祭にはテーマがありますが、高校生たちが考えた本年度のテーマは『SODA(ソーダ)』。夏の爽やかなイメージと「この学園祭が一生の思い出となりそうだ」という予感を掛けた表現とのこと。

このテーマからすぐに思い浮かんだのは『ソーダ村の村長さん』です。

そうさそうさ

ソーダ村の村長さんが

ソーダ水飲んで死んだそうさ

葬式饅頭でっかいそうさ

ネットで検索すると、『ソーダ村の村長さん』という芥川賞作家、阪田寛夫氏の詩がありました。

そうさむらの そんちようさんが  
ソーダのんで しんだそうさと  
みんながいうのは ウッソーだつて  
そんちようさんが のんだソーダは

クリームソーダの ソーダだそうさ

おかわり十かい したそうさ

うみのいろした クリームソーダ

なかでおよげば なおうまそうさ

クリームソーダの プールはどうだと

みんなどそうさん はじめたそうさ

そうさむらでは おおそうさどう

プールはつめたい ぶつそうさ

ふるにかぎると きまったそうさ

そうさよタンサン クリームおんせん

あつたかそうさ あまそうさ

おとなもこどもも くうそうさだけで

とろけるゆめみて ねたそうさ

空想をしたり、夢見たり。泣いたり、笑ったり。ときに喧嘩しながらもクラス一丸となって生徒たちが作り上げる晴れ舞台は2日だけ。終演とともに、舞台装置も展示作品も取り壊されます。そのはかなさゆえにより純粹な思い出となっていくのでしょうか。

\*

高校時代『草原の輝き』という映画に魅かれ、何度となく映画館に通いました。映画のエンディングでの、米国カンサス州に広がる広大な牧場風景とそのシーンで読まれる詩に感動

した記憶は、50年以上たった今も鮮明です。

映画のラストは、純粹で多感であるがゆえに陥った高校時代の失意からようやく立ち直ったヒロインが、何年かぶりに故郷を訪れ、ふっきたように去っていく場面。そこで流れる詩は、高校の授業シーンでヒロインがその解釈をしているうちに泣き崩れたワーズワースの詩。

Though nothing can bring back the hour  
Of splendor in the grass, of glory in the flower  
We will grieve not, rather find  
Strength in what remains behind  
草原の輝き 花の栄光  
再びそれは還らずともなげくなかれ  
その奥に秘められたる力を見出すべし

(翻訳 高瀬鎮夫)

\*

青春時代は楽しいことばかりではなく、つらいこと、悲しいことも織り交ざっています。やがて、しみじみと懐かしい思い出になっていくものです。

ながらへばまたこの頃やしのはれむ  
憂しと見し世そ今は恋しき(藤原清輔)